

環境配慮個票

事業名	農村地域防災減災事業	地区名	四万十期	受益面積	14.5ha
関係市町村名	四万十市	予定工期	H27～H31		
総事業費	286,000千円	H27年度以降事業量	286,000千円		
総事業量	ため池改修 4か所	H27年度以降事業量	ため池改修 4か所		
マスタープランの区分	環境配慮区域	自然公園等の指定	無		
既存資料による希少種の情報の有無	環境省レッドリスト2012 高知県レッドリスト2010 他				
周辺の環境	<p>四万十市の“日本最後の清流”と称される四万十川下流側に位置する旧中村市地域は、後川や中筋川をはじめとする四万十川の支流が流れ、その流域や上流部の山間地帯に集落が見られる。水稻や果樹のほか、ショウガ、イチゴ、トマトなどの施設野菜、ナバナやシントウなどの露地野菜など多品目の栽培が行われている。中村地域の森林面積は8割程度である。</p>				
地区の環境の特性	<p>▽古津賀区域（国和谷池）は下流が南向きの比較的日当たりが良好であるが、谷池のため東西に急峻な尾根挟みで日照時間は短い。          ・現地調査：植物108種 昆虫類29種 魚介類10種のうち、重要種は4種</p> <p>▽藤岡区域（小池、田城池、本谷池）はいずれも中山間部の奥まった谷池で、周囲は急斜面で日陰状態が長い。          ・現地調査：（小池）：植物116種 昆虫類32種 魚介類7種のうち、重要種は4種          （田城池）：植物120種 昆虫類30種 魚介類4種のうち、重要種は3種          （本谷池）：植物106種 昆虫類26種 魚介類9種のうち、重要種は1種、特定外来生物が1種</p> <p>◎文献調査（両区域）          四万十市に生育、生息している可能性がある重要種 植物143種、昆虫類66種          このうち、池環境に生育、生息している可能性が高い重要種 植物12種、昆虫類22種</p>				
配慮すべき事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>池内（湿地、浅場環境）の従来植物、動物への配慮 池内の浅場環境の保全</li> <li>池周辺の樹林地への配慮 工事中の樹林地へ進入を極力回避</li> <li>堤体の従来植生への配慮 堤体上に生育する植物の保護及び工事後の外来種侵入の抑制</li> <li>特定外来生物への配慮 法律の順守及び生物の他水域への拡散、流下の防止</li> <li>移植等特別な配慮の必要性の検討 新たに現地確認された重要種の移植等の必要性、可能性を検討</li> </ol>				
配慮方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>極力環境に変化のないと思われる位置に土のうや盛土等で仮締切を行い、ある程度の湛水域を設け水生動物や魚介類を現在の位置で保全する。</li> <li>池周辺の植林地を極力残す施工を計画する。</li> <li>現況堤体の表土を工事中保管しておき、堤体盛土の表土に使用する。</li> <li>池の水を抜く際は排水口に網を設置するなどして、特定外来生物の地区外への拡散、流下を防ぐ。</li> <li>今後の詳細測量設計時や工事期間中に新たな重要種が確認された場合は、移植等の必要性、その可否を検討する。</li> </ol>				